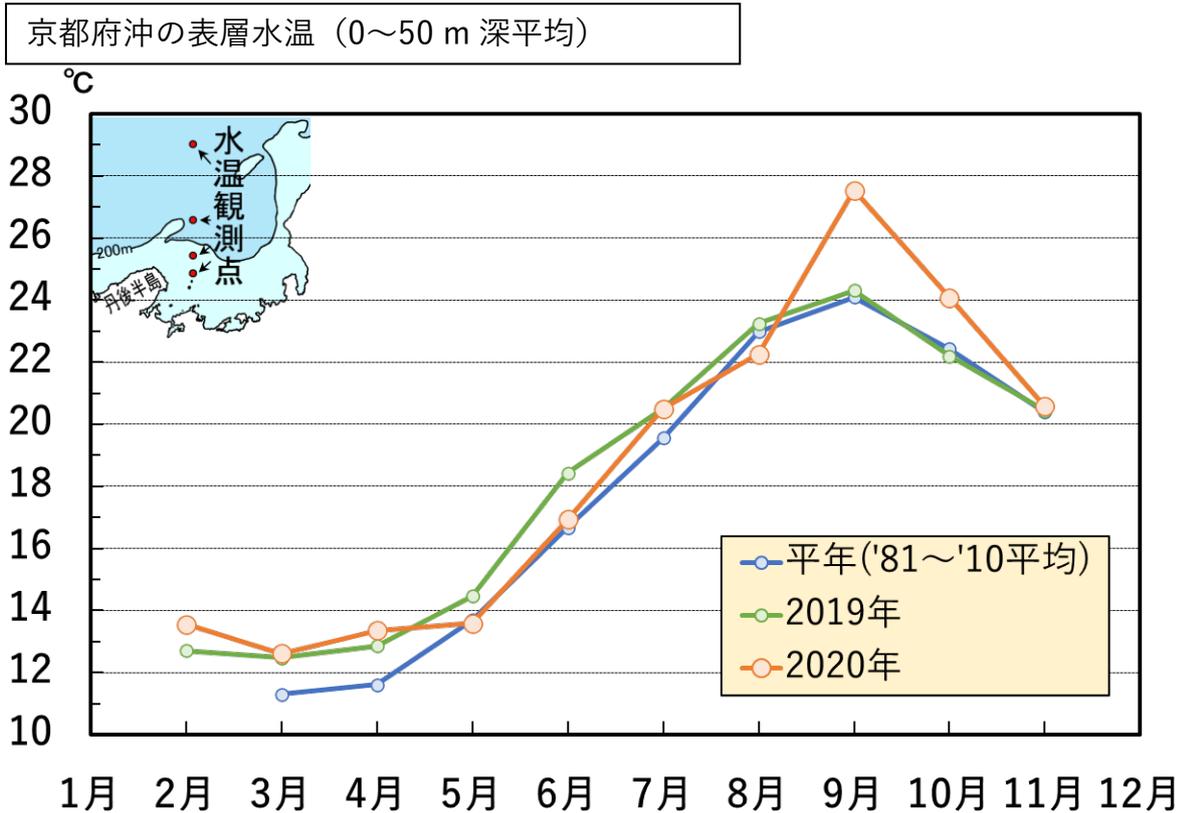


京都府漁海況情報

京都府農林水産技術センター海洋センター 研究部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

海の状況 ～2020年1月から12月まで～

表層の水温は、2月から4月ごろまでかなり高め～はなはだ高めで推移し、9月には観測データが存在する1964年以来最高の水温になりました。その後、11月には平年並みに戻りました。



単位：℃	水温	平年差	評定
1月			観測なし
2月	13.6		データ過少につき評定なし
3月	12.6	+1.3	かなり高め
4月	13.4	+1.8	はなはだ高め
5月	13.6	-0.1	平年並み
6月	16.9	+0.2	平年並み
7月	20.5	+0.9	かなり高め
8月	22.3	-0.7	やや低め
9月	27.5	+3.4	はなはだ高め
10月	24.1	+1.7	かなり高め
11月	20.6	+0.2	平年並み
12月			観測なし

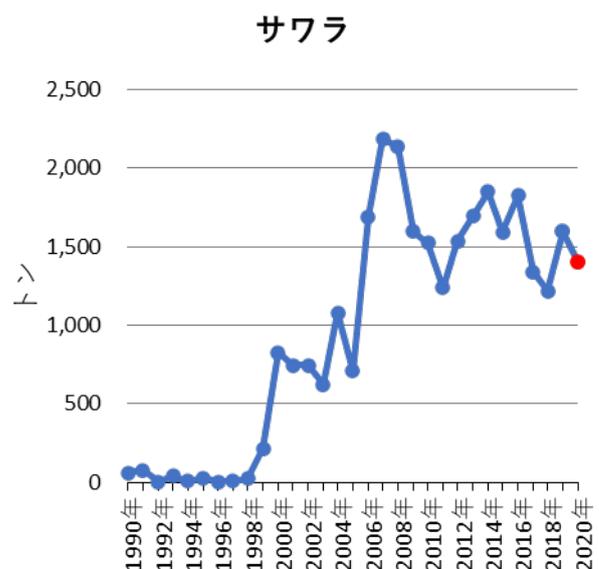
≪漁模様 2020年1月から12月まで≫

【定置網漁業】

カタクチイワシが平年の1.6倍(前年の2.1倍), シイラが平年の1.5倍(前年の1.1倍), サバ類が平年の1.5倍(前年の1.4倍)と好調でした。一方, ブリは平年の8割強(前年の7割弱), マアジが平年の5割弱(前年の8割弱)と低調でした。全体では, 平年並み(前年の1.2倍)でした。

年間漁獲量(上位10魚種) (トン) 京都府漁協集計				
魚種	2020年	2019年(前年比)	平年(平年比)	備考
カタクチイワシ(たれ)	3442.7	1661.2 (207%)	2101.0 (164%)	<サワラ銘柄別> さわら大(3kg以上): 118トン さわら(2-3kg): 348トン さわら中小(1.5-2kg): 54トン さわら小(1-1.5kg): 70トン さごし(0.4-1kg): 396トン やなぎ(0.4kg未満): 413トン <ブリ銘柄別> ぶり: 286トン まるご: 53トン はまち: 100トン つばす: 556トン <イカ類> ケンサキイカ(白いか): 145トン アオリイカ(秋いか): 90トン ヤリイカ(冬いか): 37トン ソデイカ(たるいか): 10トン スルメイカ: 14トン
サワラ	1398.6	1594.8 (88%)	1540.7 (91%)	
ブリ	995.7	1521.2 (65%)	1188.8 (84%)	
マアジ	435.7	579.3 (75%)	895.8 (49%)	
シイラ	332.8	292.9 (114%)	218.9 (152%)	
イカ類	300.3	236.7 (127%)	359.1 (84%)	
サバ類	296.8	211.2 (141%)	194.1 (153%)	
トビウオ類	207.4	93.4 (222%)	161.0 (129%)	
スズキ	166.5	187.0 (89%)	143.2 (116%)	
マイワシ	115.9	2.9 (3967%)	541.9 (21%)	
その他	809.1	1041.0 (78%)	1362.7 (59%)	
合計	8501.4	7421.6 (115%)	8707.2 (98%)	

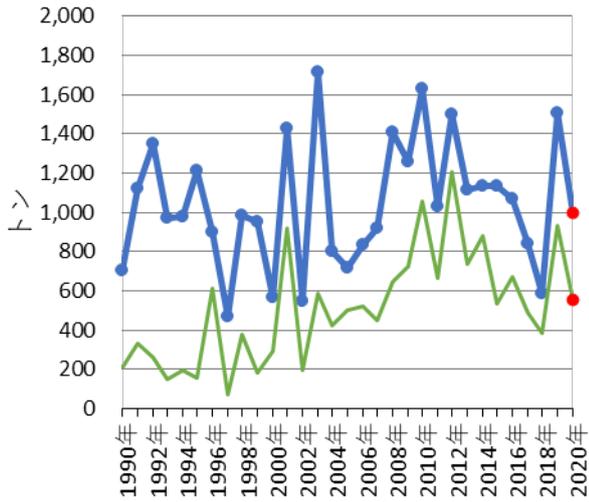
<主要魚種の漁獲量経年変化>



ここ10年ほど低調でしたが, 昨年は急増しました。(ただし, 混じって水揚げされたカタクチイワシ以外の小魚もまとめて集計していますのでご注意ください。)

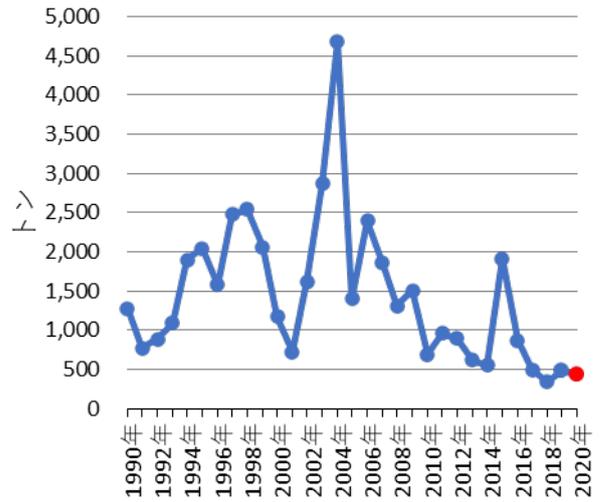
漁獲量は2000年代から急増し, 現在も好調を維持しています。

ブリ（緑線はつばす銘柄）



2019年は好調でしたが、昨年は平年をやや下回る結果になりました。4kg以上のぶり銘柄は好調でした。

マアジ

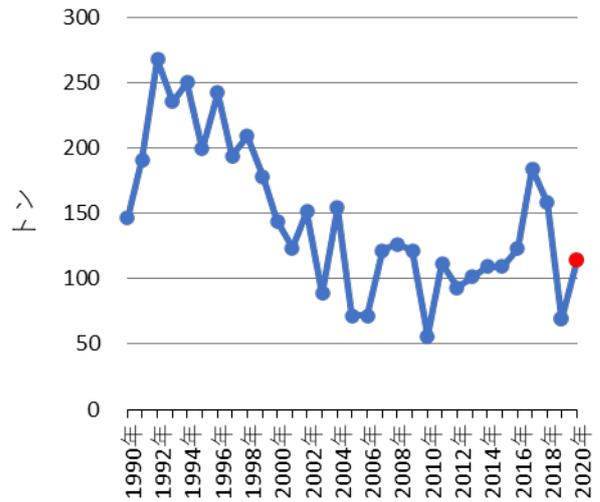


2000年代以降減少が続いており、ここ5年は低調です。

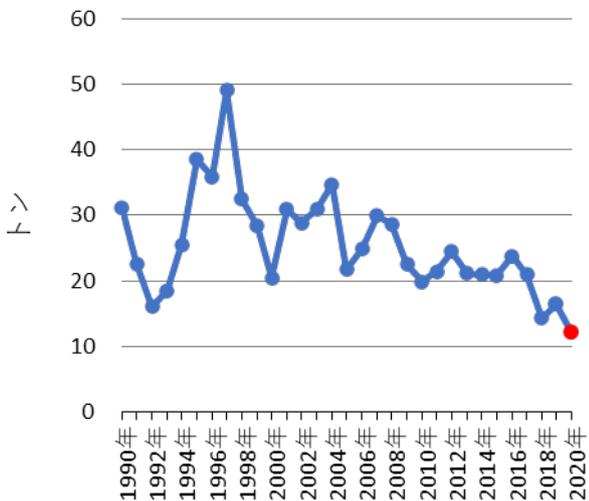
アカガレイ（底曳網）



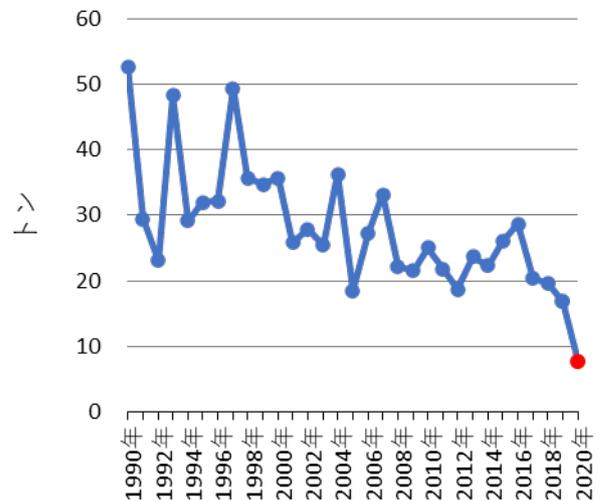
ニギス（底曳網）



アカアマダイ（釣り・延縄）



マダイ（釣り・延縄）



【底曳網漁業】

全体の水揚量は、平年の6割強（前年の1.1倍）でした。

年間漁獲量（上位10魚種）（トン） 京都府漁協集計				
魚種	2020年	2019年(前年比)	平年(平年比)	備考
ニギス(沖きす)	113.8	68.9 (165%)	111.6 (102%)	<カレイ類> アカガレイ(まがれい): 54トン ソウハチ(えてがれい): 14トン ヒレグロ(くろがれい): 7トン など <タイ類> キダイ(連子鯛): 11.5トン マダイ: 2.1トン チダイ: 1.6トン など <ズワイガニ> オス: 27トン メス: 18トン
カレイ類	80.0	78.2 (102%)	162.3 (49%)	
ズワイガニ	45.0	62.3 (72%)	71.7 (63%)	
タイ類	15.3	20.9 (73%)	17.3 (88%)	
ハタハタ	8.8	7.9 (112%)	55.2 (16%)	
アンコウ類	5.9	5.7 (103%)	15.9 (37%)	
エビ類	5.4	6.8 (79%)	7.3 (74%)	
アカムツ(のどぐろ)	5.1	5.0 (102%)	4.4 (116%)	
イカ類	4.9	3.8 (130%)	8.0 (62%)	
タラ類	3.7	6.2 (59%)	5.4 (68%)	
その他	26.2	31.0 (85%)	48.8 (54%)	
合計	314.2	296.9 (106%)	507.8 (62%)	

【釣り・はえなわ漁業】

全体の水揚量は、平年の8割弱（前年の1.1倍）でした。

年間漁獲量（上位10魚種）（トン） 京都府漁協集計				
魚種	2020年	2019年(前年比)	平年(平年比)	備考
ブリ	80.7	57.1 (141%)	56.1 (144%)	<ブリ銘柄別> ぶり: 5トン まるご: 10トン はまち: 31トン つばす: 35トン <イカ類> スルメイカ: 12トン ソデイカ(たるいか): 10トン ケンサキイカ(白いか): 2トン アオリイカ(秋いか): 2トン など <タイ類> キダイ(連子鯛): 17トン マダイ: 8トン など
イカ類	27.5	26.6 (104%)	69.0 (40%)	
タイ類	24.6	30.7 (80%)	34.7 (71%)	
サワラ	20.4	16.9 (121%)	17.1 (119%)	
アカアマダイ(ぐじ)	12.1	16.3 (74%)	20.4 (59%)	
メバル類	8.8	12.2 (72%)	14.1 (62%)	
ヒラマサ	2.5	2.1 (120%)	1.6 (163%)	
ウマヅラハギ(長はぎ)	1.8	4.8 (38%)	7.5 (24%)	
タチウオ	1.7	0.0 —	0.4 (386%)	
アカムツ	1.7	2.0 (85%)	0.3 (492%)	
その他	13.3	15.4 (87%)	25.1 (53%)	
合計	195.1	184.1 (106%)	246.3 (79%)	

【2020年に皆様から提供していただいた珍しい魚】

ヒゲハギ	ハリダシエビス
<p>1月17日 栗田生産小田事業所より 約18cm</p>  <p>尾びれがひし形，多数の縦線，胸びれ後方に二つの黒い斑点があります。日本海や太平洋側で稀に見られますが，多くはありません。観賞魚として流通しています。</p>	<p>1月17日 栗田生産小田事業所より 約8cm</p>  <p>腹側下部の黒い線状の部位に発光器があります。水深90~300mの日本海南部太平洋~ハワイ諸島周辺で見られますが，但馬沖でも記録があります。練り製品にされることもあるようです。</p>
テングノタチ	
<p>7月2日 鶴昇丸より 約1.2m</p>  <p>珍しい魚とされ，日本海側では新潟県，島根県，山口県で捕獲事例があります。2020年は京都府内でも伊根浦漁業の定置でも目撃されています。長細くて銀色ですが，タチウオ（スズキ目）とは遠縁で，リュウグウノツカイやサケガシラ（アカマンボウ目）と近縁です。</p>	

これらの魚は京都大学舞鶴水産実験所で貴重な標本として大切に保管されています。近頃，これまで見かけなかった南方の魚が獲れる事例が増加しており，2020年に入ってから珍しい魚が届いています。見慣れない海の生き物を発見された場合には，当所までご一報いただくと幸いです。